

外国人集住都市会議おおた 2009 メッセージ

日本の外国人登録者数は、2008年末現在221万人を超えて過去最高を更新すると共に、この10年間で1.5倍の伸びを示しております。

しかし、100年に一度といわれる未曾有の経済危機の中、雇用情勢は深刻さを増しており、外国人住民、特に南米系外国人にも大きな影響を与え、会員都市においては、年々増加していた外国人登録者数も、減少に転じている状況であります。

このような中で、外国人集住都市会議は、2001年の「浜松宣言」、2002年の「共同アピール」、2004年の「豊田宣言」、2006年の「よっかいち宣言」、2008年の「みのかも宣言」の理念を受け継ぎ、2009年度の本会議では、テーマを「多文化共生社会をめざして～すべての人が安心して暮らせる地域づくり～」と決めました。

新たな3都市の加入により28都市となった本会議では、3つの地域ブロックに分かれ、それぞれテーマを定め協議を行っています。特に本年は、国が「定住外国人支援に関する対策の推進について」という名称のもと、喫緊の対策として実施した諸政策のうち「教育対策」、「雇用・住宅対策」、「帰国支援」について検証を行いました。実効性の高い制度を実施していくためには、国と現場を抱える自治体がより連携を深めるべきと私たちは考えます。

なお、外国人集住都市会議にとって発足以来長年の要望でありました外国人登録制度の見直しが図られ、日本人と同じように情報を記録する新住民基本台帳制度のもと基礎的サービスを提供する基盤が確立されることとなりました。

「外国人集住都市会議おおた2009」では、「多文化共生社会をめざして～すべての人が安心して暮らせる地域づくり～」というテーマを掲げ、地域を構成する団体や人々がともに連携し、それぞれの立場を尊重しあえる地域づくりを推進していくことを誓いメッセージといたします。

2009年11月26日
外国人集住都市会議